

# 果菜類を加害するアザミウマ類の生態と防除に関する研究

## 第3報 ミナミキイロアザミウマの寄生部位と蛹化場所

山本栄一・永井清文・野中耕次 (宮崎県総合農業試験場)

YAMAMOTO, E., K. NAGAI and K. NONAKA : Ecology and Control of the Thrips Infesting Fruit Vegetable.

### 3. Sites for Infestation and Pupation of *Thrips palmi*

果菜類に著しい被害を与え、さらにその分布の拡大をみている新発生のミナミキイロアザミウマの発生予察や防除対策の参考に資するため、本県の主要果菜であるキュウリとピーマンでの寄生状況、蛹化場所について検討したので、その結果の概要を報告する。

#### 1. 材料及び方法

##### 1) 寄生状況

(1) 草丈1m及び1.5mの露地抑制キュウリを用い、1980年10月9日と台風14号(瞬間最大風速28.2m, 降水量152mm)通過翌日の10月15日に、各々6株について葉位別の寄生状況を調査した。

(2) 草丈1.2mのハウス促成ピーマンを用い、1981年1月13日に頂芽、展開葉、花、果実別に各20個体(展開葉は100枚)の寄生状況を調査した。また、1980年12月26日に花(100個)、葉(500枚)、茎(50本)別に双眼実顕微鏡下で産卵状況を調査した。

##### 2) 蛹化場所

1) のキュウリほ場(台風による茎葉の損傷が著しくミナミキイロアザミウマの寄生数は少ない)の2カ所のキュウリ株元に、タングルフットを塗布した20×20cmのガラス板の塗布面を上向きに設置し、10月20日~11月5日の幼虫附着状況を調査した。さらに、当該キュウリの茎葉上及び土中について蛹化状況を調査した。また、ガラス室内のミナミキイロアザミウマ多寄生キュウリ(草丈約1m, 3鉢)について、1981年1月13日に茎葉上及び土中における蛹化状況を調査した。

#### 2. 結果及び考察

##### 1) キュウリの葉位別寄生状況

第1表 キュウリ葉位別寄生状況(1葉平均)

草丈(m)	地上高(m)	葉位(下位葉から)	10月9日			10月15日		
			成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
1.5	心芽(1.5以上)	18~20	4.0	1.3	4.3	2.0	0.4	2.4
	上(1~1.5)	12~17	7.8	4.0	11.8	2.5	0.4	2.9
	中(0.5~1)	7~11	8.6	9.6	18.2	0.4	0.2	0.6
	下(0.5以下)	1~6	4.8	12.8	17.6	0.1	0.1	0.2
	計	1~20	25.2	27.7	51.9	5.0	1.1	6.1
1.0	心芽(0.9以上)	11~15	1.4	0.1	1.5	4.0	0	4.0
	上(0.6~0.9)	8~10	2.8	1.4	4.2	2.8	0.1	2.9
	中(0.3~0.6)	5~7	4.8	7.2	12.0	2.3	0.3	2.6
	下(0.3以下)	1~4	4.5	15.3	19.8	0.9	0.8	1.7
	計	1~15	13.5	24.0	37.5	10.0	1.2	11.2

ミナミキイロアザミウマはキュウリの全葉に分布していたが、草丈1.5mの場合では成虫は中、上位葉に多く、幼虫は下位葉に多かった。草丈1mの場合では成虫は中、下位葉に多く、幼虫は草丈1.5mの場合と同様に下位葉に多かったが、より高い比率を占めていた(第1表)。このようなことから、成、幼虫の寄生部位はキュウリの生育とともに徐々に下位葉から上位葉へと移動する傾向がみられた。また、台風の影響でキュウリ茎葉はひどい破損をうけ成、幼虫とも減少したが、特に幼虫で著しかった。

##### 2) ピーマンの部位別寄生状況

ピーマンでの寄生はおもに開花盛期の花や直径1~3cmの幼果のへた下及び心芽などで、特に花には成、幼虫ともに多く、幼果のへた下には幼虫が多かった。部位別の被害は大きな果実のへた部でひどく、次で1~3cmの幼果のへた部、心芽であり、被害の少なかったのは展開葉、落花直後の幼果であった(第2表)。また、成、幼虫が多くみられた開花中の子房での被害は認められなかった。

##### 3) 産卵部位

ピーマンでの産卵は、花器では花梗やがくで花弁や子房にはみられなかった(子房には別調査で産卵を確認)。葉では葉脈沿いに多く葉柄や葉肉部には少なかった。また、茎での産卵は確認できなかった。

##### 4) 蛹化場所

キュウリ茎葉上に前蛹や蛹は全く発見できず、2令幼虫末期に落下することが認められた。また、落下幼虫は比較的浅い土中にもぐり蛹化するが、調査ほ場での発見は困難であった。

第2表 ピーマン部位別寄生状況

調査部位	寄生率(%)	被害状況		寄生虫数(頭) <sup>a</sup>			
		被害率(%)	被害程度	成虫	幼虫	計	
心芽	50	50	十~卅	0.4	0.4	0.8	
展開葉	1	38	+	0	0.0	0.0	
花(開花盛期)	80	0	-	1.6	1.5	3.1	
果実(へたの内側)	直径0.5以下cm	30	50	+	0.1	0.3	0.4
	0.5~1	65	90	+	0.1	1.4	1.5
	1~2	85	100	十~卅	0	2.6	2.6
	2~3	90	100	卅~卍	0.1	3.5	3.6
	3以上	35	100	卍	0.1	0.5	0.6
平均	60	88	十~卍	0.1	1.7	1.8	

<sup>a</sup> 調査個体平均値, 被害程度 一健全, 十少, 卅中, 卍多